

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

調査対象：5年生

調査事項

ア 実技に関する調査

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査）

1 結果と分析

- 男女ともに、特に長座体前屈の大きく関節を動かす能力が優れている。
- 「シャトルラン」は、男女とも全国平均に達しており、走力や持久力に関する能力が優れている。
- 男女ともに、「50m走」のすばやく移動する能力や「反復横跳び」のすばやく動作を繰り返す運動に課題がある。

2 取組についての評価

(1) 体育科の学習指導

①効果があった取組

- ・単元に関わる体の動かし方を動画で提示し、学習の見通しをもつ時間の設定
- ・学習プリントを活用した、個別のめあての設定と振り返り活動の設定
- ・運動への意欲を高めるための、スポコン広場の活用

②改善を図る点

- ・体を動かす楽しさを味わうことができ、敏捷性を高めるための運動の充実
- ・体育科の授業内で、単元の内容に関わる、短時間で取り組める運動を行い、体力を高める運動を継続して実践
- ・タブレット端末の録画機能や学習プリントを活用した、自分自身の運動を見つめなおす対話活動の充実
- ・学校全体や学年毎における、スポコン広場の効果的な活用

(2) 今後の体力向上に対する取組

- ・体力の向上を実感させ、運動への意欲を高めるための、各学年で課題となる種目に再度取り組む体力アップ週間を設定する。
- ・様々な運動ができるよう、教師や委員会活動を中心に外遊びを推奨する。
- ・実施なしの項目がある児童を減らせるよう、運動が楽しくなる取組を実施する。